

# 米の輸出をめぐる状況について



THIS IS  
JAPAN QUALITY  
日本のおいしい米。

農林水産省 農産局 企画課米穀貿易企画室  
戦略的輸出事業者対策班 課長補佐 久保 努

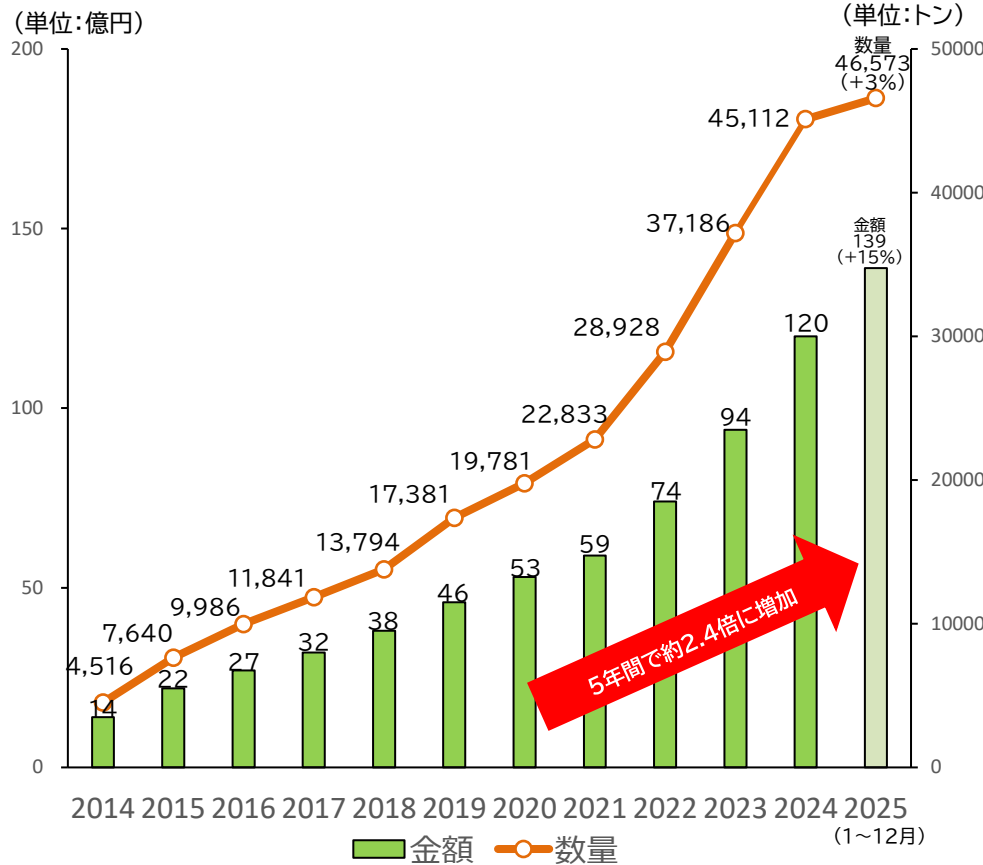
## 本日のアジェンダ

- 米の輸出の現在地
- 輸出用米の生産状況
- 米の輸出産地
- 予算関連
- (参考)需要に応じた生産

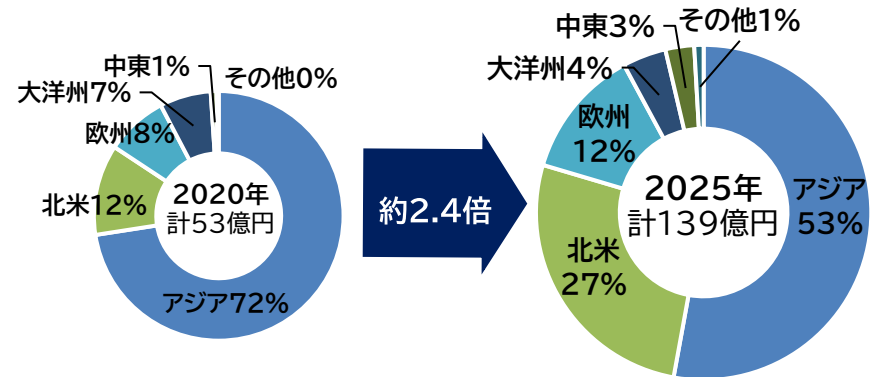
米の輸出の現在地

- 2025年の輸出数量は46,573トン(対前年比+3%)となり、直近5年間で約2.4倍に増加。海外における日本食レストランやおにぎり店などの需要開拓を進めた結果、アジアのほか、北米や欧州向けも大きく増加。また、中東等、輸出実績のない/少ない国・地域向けの輸出に取り組む事業者も多くみられる。
- 海外の日本食レストランの店舗数は増加傾向にあり、アジアの店舗数が最も多い。日本食のマーケットは確実に世界で広がりつつある状況。
- 近年は日系中食・レストランチェーン、小売店の海外進出等を背景に、日本産米の海外需要も年々高まっている。

## 商業用米の輸出実績 資料:財務省「貿易統計」(政府による食糧援助を除く。) 注:括弧書きは対前年同期比を表す。



## 地域別輸出実績の変化



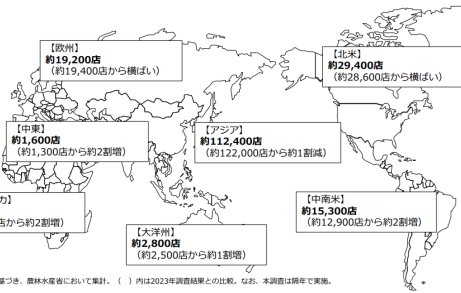
	2020年		2025年
アジア	38.57億円 (15,014トン)	約1.9倍	73.39億円 (27,165トン)
北米	6.27億円 (2,194トン)	約5.9倍	37.07億円 (11,798トン)
欧州	4.29億円 (1,274トン)	約4.1倍	17.41億円 (4,716トン)
大洋州	3.56億円 (1,117トン)	約1.6倍	5.83億円 (1,459トン)
中東	0.40億円 (88トン)	約9.6倍	3.85億円 (1,074トン)
その他	0.06億円 (94トン)	約20.8倍	1.25億円 (361トン)

## <外食>

- 海外の日本食レストランの店舗数は増加傾向にあり、アジアの店舗数が最も多い。日本食のマーケットは確実に世界で広がりつつある状況。
- 米を主軸とした幅広いメニュー構成と、多様な客層を取り込む日本食レストランの海外展開は、日本産米の輸出拡大を大きく後押し。

## <中食>

- 海外のスーパー等で使用されている米の多くは他国産であり、日本産米に転換することができれば、極めて大きな新たな需要の創出が見込まれる。
- 他国産米から日本産米への転換を進めるためには、国際競争力を備えた米の安定供給が不可欠であり、需要に応える生産体制(量・価格面)の構築が必要。



インバウンド客の増加も背景に、寿司をはじめとした日本食の人気は依然として堅調。2025年の海外における日本食レストランの数は、2019年の約15.6万店から6年間で1.2倍の約18.1万店となった。

欧米を中心にスーパー等の総菜コーナーにおいて、寿司やおにぎり、ポキ丼等の米を使用したデリ商品が増加。米を使った総菜は、現地における日常的な昼食・夕食として定着。高い消費頻度により、継続的な販売数量確保が可能。そのうえ、外食に比べ手頃な価格で、幅広い消費者層を取り込むことが可能。また、販売点数が多く、累積的な需要は大きい他国産米からの転換により、輸出量の大幅な上積みが可能。

## 株式会社FOOD&LIFE COMPANIES



- アジアを中心に「スシロー」「杉玉」業態を展開。
- 日本で磨いた寿司ブランドを世界に伝えるために、海外店舗でも日本のクオリティーをそのまま提供。

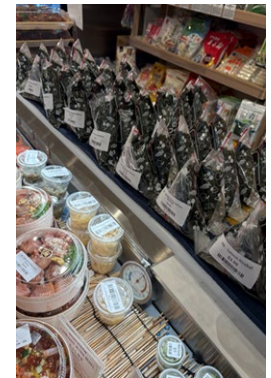
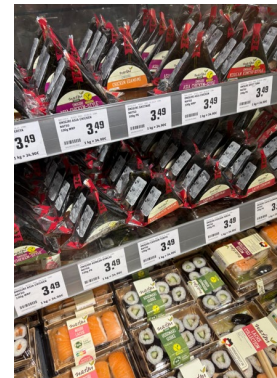
(2025年12月時点店舗数:約255店舗)

## 株式会社プレナス



- 東南アジアやオーストラリアを中心に「やよい軒」を展開。
- 米の自社生産にも取り組み、自社生産の日本産米をオーストラリアやシンガポールの店舗で提供。

(2025年12月時点店舗数:約260店舗)



ドイツの小売店で販売されている寿司やおにぎり

アメリカの小売店で販売されている丼ぶりやおにぎり

- おにぎりは、テイクアウトが可能で片手で手軽に食べられ、外食に比べコストパフォーマンスも高く、さらに健康食として、今後あらゆる地域で需要が拡大するポテンシャルを有する。
- アジアのみならず北米、欧州、大洋州等の地域でおにぎりブームが到来。専門店の出店が相次ぐほか、スーパーマーケットやテイクアウト店での取り扱いも急増。
- 冷めてもおいしいなど、日本産米ならではの特性が最大限に生きる商材であり、日本産米の輸出拡大において極めて有効なコンテンツ。

(2025年1月時点)

### (株)イワイ(アメリカ・フランス)



(店舗数:4店舗)

- アメリカ(NY, NJ)とフランス(パリ)におむすび専門店「おむすび権米衛」を展開。
- 玄米形態で輸出し現地店舗で精米することで、精米したての米を使ったおむすびを消費者へ提供。
- 国内外店舗を問わず、店舗で使用される全ての米を生産者と直接契約。
- コロナ禍によるテイクアウト需要で売上げが加速。

### 百農社国際有限公司(香港)



- 香港のオフィス、ショッピングモール、地下鉄駅構内等において、おむすび専門店「華御結」 「OMUSUBI」を展開。
- 米は全て日本産を使用。品質の均一化・多店舗展開に対応するため、おむすびは全て自社工場で製造。
- 生産者とは毎月1回ミーティングを行い、ブランドコンセプトを共有。

(店舗数:150店舗)

### (株)パン・パシフィック・インターナショナルホールディングス (シンガポール・香港・マカオ・台湾・マレーシア・アメリカ)



(店舗数:22店舗)

- DON DON DONKI店内で、握りたてのおにぎり と精米したての米を提供する日本産米専門店「富田精米(シンガポール・マレーシア・香港・マカオ・台湾)」「安田(やすだ)精米(香港・台湾・アメリカ(ハワイ・グアム・カリフォルニア))」を展開。
- おにぎりを食べてもらう飲食業と日本産米を買ってもらう物販業が併存する従来にないハイブリッド型。
- 玄米輸出、現地精米をすることで、鮮度の高い日本産米を提供。

### KNT-CTホールディングス(株)(アメリカ)



- 旅行会社として日本の食材と日本産米の魅力を海外へ向け発信し、地域創生を目指す「コメイノベーション事業」を開始。
- フードトラックでの、おにぎりのテスト販売を経て、「ONIGIRI SUN」をロサンゼルスにオープン。
- 玄米輸出、現地精米した日本産米で、握りたてのおにぎりを提供。具材には鮭・明太子・昆布等の定番に加え、大豆ミートそぼろ等、ヴィーガンにも対応。飲料にも日本発の玄米デカフェを提供。

(店舗数:1店舗)

- 例えば、他国産米にはない「解凍後でもおいしい」という日本産米の特長、優れた冷凍技術など我が国の「強み」を生かした、他国が真似できない商品の訴求による販売力強化や高付加価値化が重要

## 日本の強みを活かした米加工品の例

### 冷凍寿司・シャリ玉

- ・ 調理の簡便さから寿司職人が不足する中でも提供可能
- ・ 冷凍技術の向上により品質も高く、手軽な本格的日本食として需要が見込まれる



### 米粉・米粉製品

- ・ グルテンフリーで、パン・麺など多様な用途に活用可能
- ・ 小麦粉と比べ、低吸油のため、日本食の有する「ヘルシー」なイメージともマッチ



### 冷凍加工米飯

- ・ 大手は日本食の普及に伴い多様化するニーズに対応
- ・ 米国の巨大冷凍食品市場では、冷凍加工米飯に韓国産(冷凍キンパなど)が積極進出



### 米菓

- ・ 手軽で「ヘルシー」なスナック菓子として需要が見込まれる
- ・ 現地ニーズに即したネーミングやパッケージ化により、日常のおやつとして定番化の可能性



### 冷凍弁当

- ・ 国内では、ニーズに応じて商品も多様化。海外には、日本産食品をパッケージで訴求可能
- ・ 外食中心で健康志向を有する消費者に対して栄養バランスの取れた日本食の強みを生かせる



### 日本酒

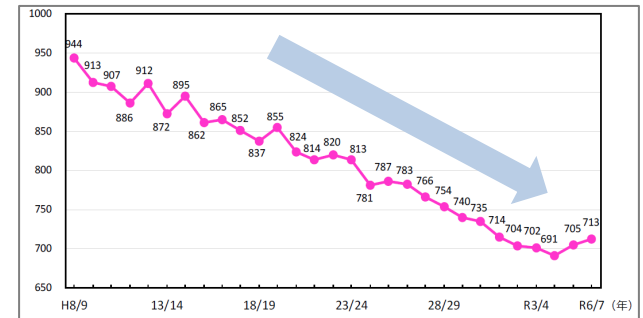
- ・ 「SAKE」は日本食のみならず各国の料理に合う食中酒等として世界中で認知が拡大中
- ・ 日本食ブームやインバウンド需要の高まりを背景に、輸出量は堅調に推移



## 現状

- 米・米加工品の輸出は2020年から2025年の5年間で2.6倍(2020年60億円→2025年159億円)に増加
- 米食文化のある国・地域を中心に日系の小売・外食店等に対する販路開拓により、これまで順調に米の輸出が拡大
- 一方で、国内需要は減少傾向にある中、更なる海外需要の開拓が必要だが、そのためには、米食文化のない国・地域における需要開拓や非日系市場の商流開拓、需要に応えるための供給体制に課題

### 主食用米の需要量の推移



(出典) 農林水産省「米をめぐる状況について(令和7年10月)」

## 目指す姿

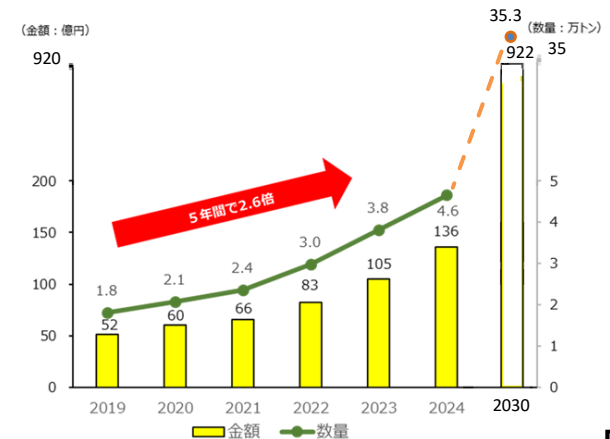
### 【生産】

- 2025年4月策定の「食料・農業・農村基本計画」において、2030年の米の生産量について、2023年の791万トンから818万トンに増大する目標を設定
- ⇒各生産者が「需要に応じた生産」を行うことを前提に、米の増産に前向きに取り組めるよう、輸出を含めた需要開拓を行うことが必要

### 【輸出】

- 「米・パックご飯・米粉及び米粉製品」の輸出について、2030年に35.3万トン(922億円)とする目標を設定
- ⇒米の輸出量が増加する中、海外需要に応じた生産を行う大規模輸出産地の育成、生産性向上の取組を強力に進める必要

### 米等の輸出実績



## 輸出用米の生産状況

- 令和7年産の主食用米の作付面積は、前年実績(125.9万ha)から**10.8万ha**(6月末時点の作付意向から**0.4万ha**)増加し、**136.7万ha**となった。
- 戦略作物等の作付面積は、いずれの品目も減少するとともに、畑地化面積については、**0.8万ha**となった。

### 【主食用米、備蓄米及び戦略作物の作付状況】

(万ha)

年 産	主食用米	備蓄米	戦略作物等									
			加工用米	新規 需要米	新市場 開拓用米 (輸出用米等)	米粉用米	飼料用米	WCS用稲 (稲発酵粗 飼料用稲)	麦	大豆	飼料作物 そば なたね	戦略 作物等 合計面積
H30年産	138.6	2.2	5.1	13.1	0.4	0.5	8.0	4.3	9.7	8.8	10.2	47.0
R元年産	137.9	3.3	4.7	12.4	0.4	0.5	7.3	4.2	9.7	8.6	10.2	45.6
R2年産	136.6	3.7	4.5	12.6	0.6	0.6	7.1	4.3	9.8	8.5	10.2	45.6
R3年産	130.3	3.6	4.8	17.4	0.7	0.8	11.6	4.4	10.2	8.5	10.2	51.2
R4年産	125.1	3.6	5.0	20.6	0.7	0.8	14.2	4.8	10.6	8.9	9.9	54.9
R5年産	124.2	3.5	4.9	20.4	0.9	0.8	13.4	5.3	10.5	8.8	8.5	53.1
R6年産	125.9	3.0	5.0	17.3	1.1	0.6	9.9	5.6	10.3	8.4	7.4	48.3
R7年産	136.7	—	4.4	10.8	0.9	0.4	4.6	4.9	9.5	7.5	6.7	38.8
対前年差	10.8	▲ 3.0	▲ 0.6	▲ 6.5	▲ 0.2	▲ 0.3	▲ 5.3	▲ 0.8	▲ 0.8	▲ 1.0	▲ 0.8	▲ 9.5
畑地化面積	—	—	—	—	—	—	—	—	0.1	0.1	0.3	※ (0.8) 0.5

注1：加工用米及び新規需要米（新市場開拓用米、米粉用米、飼料用米及びWCS用稲）のR6年産以前の実績は、取組計画の認定面積。R7年産は取組計画の届出面積。

2：麦、大豆、飼料作物、そば及びなたねは、地方農政局等が都道府県農業再生協議会等に聞き取った面積（基幹作）。

3：備蓄米は、R7年産米の入札を中止。R6年産以前の実績は、地域農業再生協議会が把握した面積。

4：R7年産畑地化面積は、令和7年度に畑地化促進事業で採択された面積。また、戦略作物等合計面積欄の0.8万haについては、麦、大豆、飼料作物、そば、なたねのほか、高収益作物等を加えた面積。

5：単位未満で四捨五入しているため、表記上の数値による計算結果と一致しない場合がある。

# 令和7年産の水田における作付状況(令和7年9月15日時点) ②

# 輸出用米の生産状況

都道府県	主食用米			戦略作物等												【参考】 R7年産 畑地化 面積			
	①	【参考】		加工 用米	前年産 からの 増減	新規 需要米	前年産 からの 増減	新市場 開拓用米 (輸出用米等)	米粉 用米	飼料 用米	WCS用稲 (稲発酵粗 飼料用稲)	その他	麦	大豆	飼料 作物		そば	なたね	戦略 作物等 合計
		前年産 (6年産) ②	増減 ①-②																
全国計	136.7万	125.9万	10.8万	44,190	▲ 6,007	107,502	▲ 65,288	9,003	3,514	46,004	48,896	84	94,809	74,900	43,840	22,151	533	387,923	7,800
北海道	90,400	83,700	6,700	8,103	1,303	7,553	▲ 2,901	2,114	93	2,305	3,042	-	29,659	14,763	6,980	4,775	336	72,169	5,029
青森	43,700	37,200	6,500	344	▲ 336	5,233	▲ 1,560	292	16	4,248	676	-	475	4,254	2,548	853	2	13,709	343
岩手	46,900	43,100	3,800	798	▲ 479	5,267	▲ 2,520	350	19	2,894	2,004	1	3,332	3,716	5,412	532	12	19,069	244
宮城	65,300	58,400	6,900	1,810	865	6,464	▲ 4,979	815	56	3,330	2,261	2	2,243	8,570	4,532	365	0	23,984	153
秋田	81,200	72,200	9,000	5,581	▲ 2,838	2,451	▲ 2,189	453	171	809	1,016	2	117	7,328	1,637	3,391	-	20,504	144
山形	57,100	52,400	4,700	4,698	390	4,847	▲ 1,764	450	53	3,109	1,230	5	100	4,049	2,072	3,652	2	19,419	809
福島	67,000	56,500	10,500	946	518	2,423	▲ 5,836	98	20	1,440	865	0	367	804	1,523	1,297	103	7,465	113
茨城	66,700	59,900	6,800	1,082	▲ 209	5,716	▲ 6,454	898	98	4,173	546	1	3,571	656	434	425	0	11,884	110
栃木	58,100	49,000	9,100	1,693	▲ 219	7,190	▲ 7,666	48	176	5,014	1,952	-	6,632	360	2,555	1,206	6	19,642	103
群馬	14,700	12,800	1,900	206	▲ 1,150	923	▲ 956	3	120	242	557	-	1,405	97	153	15	-	2,798	13
埼玉	30,600	28,400	2,200	44	▲ 100	1,273	▲ 1,896	19	314	816	123	-	2,222	299	150	100	1	4,089	2
千葉	53,100	48,300	4,800	1,514	▲ 558	3,159	▲ 4,958	81	42	2,065	971	-	429	171	239	5	-	5,515	24
東京	112	107	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
神奈川	2,840	2,840	0	-	-	9	▲ 6	-	-	7	2	-	2	3	1	0	-	15	0
新潟	108,600	101,400	7,200	6,642	▲ 118	4,234	▲ 2,538	1,546	723	1,334	630	0	226	3,307	277	680	-	15,366	31
富山	33,700	31,200	2,500	1,271	128	2,621	▲ 509	364	258	1,472	528	-	2,923	3,581	301	250	22	10,969	17
石川	22,100	21,200	900	595	67	449	▲ 507	28	189	121	112	-	1,107	798	28	145	-	3,123	1
福井	23,300	21,900	1,400	787	294	1,337	▲ 743	277	85	851	125	-	4,985	45	35	524	-	7,712	3
山梨	4,560	4,590	▲ 30	55	▲ 12	54	▲ 7	-	17	13	24	-	55	83	17	112	-	377	-
長野	30,000	29,000	1,000	423	▲ 333	579	▲ 339	175	36	136	233	-	2,288	564	476	1,925	-	6,255	87
岐阜	20,800	19,600	1,200	987	▲ 153	2,079	▲ 1,229	58	67	1,660	295	-	3,601	241	546	250	6	7,709	23
静岡	14,700	14,400	300	26	▲ 72	614	▲ 500	1	6	290	317	-	170	20	36	24	0	891	7
愛知	25,700	25,000	700	520	▲ 130	1,439	▲ 399	36	292	971	140	-	5,557	47	120	5	4	7,693	-
三重	25,700	24,500	1,200	111	▲ 65	1,296	▲ 1,165	91	33	862	310	-	6,721	115	178	7	4	8,434	1

注1：主食用米は統計部公表の都道府県別の主食用米の面積。  
 2：加工用米及び新規需要米は、取組計画の届出面積。  
 3：麦、大豆、飼料作物、そば及びなたねは、地方農政局等が都道府県農業再生協議会等に聞き取った面積（基幹作）。  
 4：R7年産畑地化面積は、令和7年度に畑地化促進事業で採択された面積。  
 5：単位未満で四捨五入しているため、表記上の数値による計算結果と一致しない場合がある。

# 令和7年産の水田における作付状況(令和7年9月15日時点) ③

# 輸出用米の生産状況

(ha)

都道府県	主食用米			戦略作物等										【参考】 R7年産 畑地化 面積					
	①	【参考】		加工 用米	前年産 からの 増減	新規 需要米	前年産 からの 増減	新市場 開拓用米 (輸出用米等)	米粉 用米	飼料 用米	WCS用稲 糠発酵粗 飼料用稲	その他	麦		大豆	飼料 作物	そば	なたね	戦略 作物等 合計
		前年産 (6年産) ②	増減 ①-②																
滋賀	29,300	27,400	1,900	296	▲ 209	1,104	▲ 1,037	136	37	601	330	-	7,941	620	179	113	9	10,262	18
京都	13,200	13,000	200	355	▲ 174	244	▲ 84	19	10	69	147	-	254	214	51	130	-	1,249	10
大阪	4,100	4,290	▲ 190	0	▲ 0	7	▲ 6	-	1	1	5	-	1	5	1	-	-	15	4
兵庫	33,600	32,200	1,400	563	▲ 104	1,387	▲ 604	193	29	250	910	6	1,810	1,351	648	94	8	5,861	61
奈良	7,750	7,960	▲ 210	4	▲ 7	60	▲ 45	-	13	8	39	-	74	28	4	1	0	170	7
和歌山	5,600	5,680	▲ 80	-	-	5	▲ 2	-	1	2	2	-	9	8	1	2	-	24	0
鳥取	12,000	11,600	400	19	2	855	▲ 320	19	1	426	410	0	80	450	707	300	-	2,410	56
島根	16,100	15,700	400	117	▲ 83	1,180	▲ 400	0	7	453	720	0	205	441	368	252	5	2,567	12
岡山	28,100	27,200	900	98	▲ 183	1,018	▲ 936	216	27	297	477	-	898	706	781	96	-	3,596	38
広島	20,200	20,100	100	165	▲ 193	855	▲ 388	38	67	113	638	0	254	180	841	222	-	2,517	33
山口	16,300	15,800	500	828	▲ 143	1,128	▲ 429	93	18	589	427	-	749	605	718	30	0	4,058	4
徳島	10,300	9,790	510	3	▲ 17	362	▲ 563	2	4	168	187	-	47	2	77	2	-	493	-
香川	10,100	9,770	330	22	▲ 31	426	▲ 149	21	8	60	337	-	1,083	30	199	3	1	1,765	-
愛媛	12,700	12,700	0	46	0	380	▲ 206	-	2	160	218	-	392	251	189	3	-	1,261	11
高知	10,500	10,100	400	73	▲ 10	830	▲ 574	-	15	492	323	-	3	48	111	0	-	1,065	14
福岡	34,500	32,200	2,300	180	▲ 34	3,134	▲ 1,577	3	235	937	1,958	-	1,195	6,673	374	37	1	11,592	74
佐賀	23,700	22,000	1,700	320	▲ 56	2,230	▲ 784	15	12	451	1,753	-	210	6,281	329	12	0	9,384	33
長崎	9,460	9,360	100	4	▲ 1	1,486	▲ 245	13	3	76	1,395	-	76	191	1,543	35	2	3,338	15
熊本	31,900	28,800	3,100	282	▲ 385	8,896	▲ 2,118	26	59	564	8,202	45	632	1,741	1,666	153	6	13,376	118
大分	18,900	17,800	1,100	119	▲ 40	3,342	▲ 1,263	5	56	1,015	2,266	-	599	795	825	72	1	5,753	16
宮崎	13,500	12,400	1,100	1,550	▲ 559	7,570	▲ 766	8	16	768	6,758	19	12	187	2,640	26	0	11,986	11
鹿児島	17,600	15,600	2,000	877	▲ 566	3,757	▲ 1,158	-	10	340	3,405	2	98	220	1,318	29	-	6,297	6
沖縄	597	557	40	34	▲ 6	35	▲ 12	-	1	2	32	-	-	-	22	-	-	91	-

注1:主食用米は統計部公表の都道府県別の主食用米の面積。  
 2:加工用米及び新規需要米は、取組計画の届出面積。  
 3:麦、大豆、飼料作物、そば及びなたねは、地方農政局等が都道府県農業再生協議会等に聞き取った面積(基幹作)。  
 4:R7年産畑地化面積は、令和7年度に畑地化促進事業で採択された面積。  
 5:単位未滿で四捨五入しているため、表記上の数値による計算結果と一致しない場合がある。